



# THE ROTARY CLUB OF TOKYO NEW-SOUTH



## Weekly Report 東京新南ロータリークラブ週報

Build The Future with Action and Vision

築け未来を行動力と先見の眼で

1996~97年度・国際ロータリーのテーマ/ルイス・ピセンテ・ジアイ会長

### ◎本日の例会

5月9日/第510回例会

### ◎卓話「今、映画が向かうべきこととは」

映画監督 篠原哲男氏

### ◎先週報告

5月2日/第509回例会

◎ビュッフェスタイル例会のため卓話はありませんでした。

◎会長報告 中村地区ガバナーより本年度地区大会で長寿会員の御祝いがあった旨の報告がありました。田辺賢三会員へ記念品が届きましたので、贈らせていただきます。

◎親睦活動委員会(青野委員長)

①新会員、牧野吉郎、谷 義一、開発英基、杉山好一郎、小杉修造各会員のロースターが出来ましたので、ロースター・ファイルに追加して下さい。

②先週末の親睦旅行でオリンピック施設等を見学しましたが、(財)長野オリンピック冬季競技大会組織委員会の牛越徹氏より礼状が届きましたので披露させていただきます。

◎慶事披露 ●米山功労者表彰/河原勢自君 ●誕生日祝/宮武保義君(5月2日)、小原 健君(5月7日)

◎出席報告 ●会員69名・出席49名・欠席20名(出席規定免除者1名)

ビジター(2名 敬称略・順不同)/E. ウルナー(東京神宮)、中野博義(東京南)

### ◎花と歴史と親睦と——春の親睦旅行に参加して——

#### 1. 第一日(4月26日(土))

快晴無風、最高の旅行日和に恵まれる。9:30上野発。同乗者は会員17名、同夫人8名、現地合流の3名を加え、今回参加者総数は28名。途中新緑と満開の樹々(八重桜、花みずき、こぶし、りんご、桃等)が旅情を駆り立てる。12:15長野着。善光寺御開帳で賑う市内を経て城山へ。昼食は展望絶景の萬住亭で懐石料理。引続いて長野オリンピック組織委員会総務部の牛越参事より施設、運営についての基本的考え方を承る。特に環境保護のためのご苦労に強い感銘を受ける。再びバスに同乗、アイスホッケーA会場(「ビックハット」)およびスピードスケート会場(「エムウエーブ」)をそれぞれ見学。山々とのハーモニーに力点をおいた設計は、その斬新さと華麗さで印象的であった。17:30妙高パインバレープリンスホテル着。夕食に先立ち、平井職業奉仕委員長はその挨拶の中で、ロータリーの本質としての親睦と職業奉仕の重要性を強調された。和洋折衷のビュッフェは美酒の注入とともに自ら二次会、三次会へと発展し、夫人共々親睦の宴は深更にかけてますます盛り上がった。

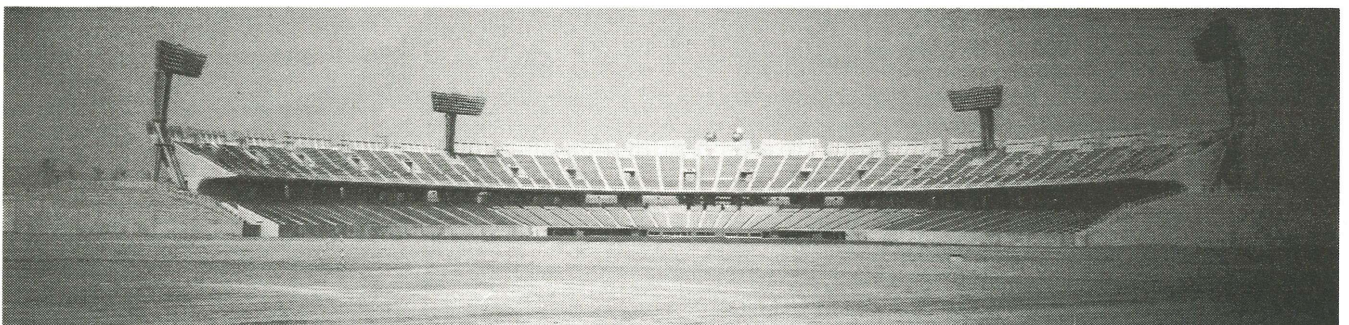
#### 2. 第二日(4月27日(日))

庄巻は早朝の窓越しに見る白雪皚皚たる妙高連山の景観であった。8:45ホテルをあとに一路国道18号を柏原へ。ここでは俳人小林一茶の旧宅を見学。栗と歴史の里・小布施町では福島正則縁の岩松院を訪ね、葛飾北斎88才の大作品天井図を仰向けに拝観。次いで中心部の北斎館と中島千波



館でゆっくりと作品を鑑賞することができました。昼食は伝統の香り高い料亭「寿々喜華壇」本店で名物栗おこわに舌鼓を打つ。帰路、桜の花弁をイメージした多目的競技場(開閉会式場)を車窓から見学しつつ長野駅着。東京駅17:45着で全行程を無事終了した。

3. いつもそうであるが、今回もロータリーの一泊旅行に参加してよかったとの思いが強い。それは、普段ゆっくり話し合うチャンスの少ない人々と、いろいろなテーマについて語り合うことができ、それによって相互の理解を多少なりとも深めることができたからである。最後にある若手会員がふと漏らされた感想を引用させていただきます。「今回の一泊旅行で、例会一年分の親睦が達成されたような気がします。」次年度はもっと多数の会員の参加を希いながら攔筆いたします。(親睦委員 渡邊 治)



## 回卓話「ボーイスカウトとロータリー」

(4月25日/例会)

(財)ボーイスカウト日本連盟常務理事

東京銀座ロータリークラブ会員 上島 真一郎氏

ロータリークラブは1905年にシカゴで生まれましたが、その2年後の1907年にイギリスで発祥したボーイスカウトは、今年90周年を迎えました。日本は結成して75年の節目になります。

ボーイスカウトは、イギリスの元騎兵だったベーデン・パウエル (Baden-Powell) 卿によって創設されました。

パウエルは、敵陣の偵察に現地の少年を使って研究しました。少年の俊敏な動作に注目し、イギリスの近くの小島、ブラウン・シー・アイランドで少年たちの実験キャンプを設営しました。そこで彼は、少年たちが社会に役立つ教育方法を編み出し、「スカウティング・ボーイズ」という本を著しました。

ボーイ・スカウトはすぐにアメリカに広まりました。その動機は爽やかで感動的な話から始まるのです。

それは1909年のことでした。アメリカの或る有名な出版業者がイギリスを訪れ、旅行鞆と地図を手にロンドンの駅に降り立ちました。しかし、生憎の夜で自分の捜している所が見つからず途方に暮れていました。そのとき、霧深いロンドンの街角から一人のきびきびとした少年が現われ、彼に問い掛けました。彼は目的の場所が捜し当らず困っていることを話しますと、少年は彼を無事、目的の場所まで案内したのです。出版業者は感謝の言葉と共にポケットから一枚の銀貨をとり出し、チップとして差し出したところ、その少年は「私はボーイスカウトですから、お礼をいただくことはできません。それよりも、私は一日一善をする習慣にしていますが、その一善をさせていただいたことに心から感謝いたします」と言って、霧の中に消えていきました。出版業者は初めて聞いた「ボーイスカウト」とは一体何だろう、と思いつつ帰国後調べたところ、イギリスで「スカウティング・ボーイズ」という本が出版されていることを知りました。彼はイギリスの出版業界を通じてベーデン・パウエルという人が2年前にボーイスカウトを創設していることを知り、アメリカにもボーイスカウトをつくり世に広めたいと考えました。そして翌年の1910年、ボーイスカウト・アメリカ連盟が結成されました。アメリカ連盟は、その善行少年に感謝をしたい、ということで、イギリスのボーイスカウト連盟を通じて、あらゆる手を尽くしてその少年を捜しましたが到頭現われませんでした。そこで、その少年を「Unknown Scout」と呼んで、無名ス



カウトの為に「野牛の像」を作り、「アメリカ連盟功労賞」としてイギリス連盟に贈りました。その像はギルベルという訓練所の中央に置かれています。その後、アメリカのロータリークラブは進んでボーイスカウトの中に飛び込んで金銭的な支援その他種々の面で深い関わりを持つようになりました。アメリカのロータリークラブとボーイスカウト連盟とは車の両輪の関係にあります。

次に、日本にはどのようにボーイスカウト運動がもたらされたのでしょうか。

いまは亡き昭和天皇が皇太子時代の明治10年に渡英された折、ベーデン・パウエルはロンドンで皇太子に謁見しました。皇太子がボーイスカウトについて尋ねますと、パウエル卿は「ボーイスカウトは人に信頼される少年を育てるのが目的ですが、究極の目的は世界の平和です」と答えられ、皇太子は大層感激されたそうです。帰国後、皇太子は日本にも世の中に役立つ少年団を望まれ、それがきっかけとなって明治11年「少年団日本連盟」が結成されました。これがボーイスカウト日本連盟の前身です。

さて、ここでもう一つのエピソードをお話しましょう。太平洋戦争の末期に、日米がある南の島で激戦をしていたときのことアメリカ兵の一人が重傷を負いました。日本兵が銃剣を持って突撃したとき、そのアメリカ兵が倒れていたのです。アメリカ兵は銃剣で殺されると覚悟を決めていました。ところが、その日本兵はアメリカ兵が「三指の敬礼」をしているのを見て、これはボーイスカウトのサインであり、このアメリカ兵はきっとボーイスカウトの出身に違いないと思い、「自分も少年の頃ボーイスカウトにいた」というメモを残してその場を去ったのでした。赤十字が負傷したアメリカ兵を救ったとき、そのことが分かりました。終戦後ボーイスカウト・アメリカ連盟は、昔のボーイスカウトだった日本兵にお礼をしたいということで捜したのですが、これもイギリスと同様現われませんでした。これは南太平洋の無名戦士の逸話として語り継がれております。

ボーイスカウトで尊重していることは「自発精神」であり、それは人から強いられるということではなく、自分から進んで良いことを行う、ということです。ロータリーに於いて一人一人が職業を通して自発的に奉仕することがロータリークラブの原点であります。(まとも山下)



順不同・敬称略

5月2日/23件 70,000円

本年度累計 2,195,907円

多額のご寄付を有難うございました。

石東嘉男/長らくご無沙汰して申し訳ありません。入院中には会長さん始め会員の方々のお心遣いありがとうございます。斉藤茂之/石東先生の全快を祝して。渡邊 治/石東先生、お久しぶりにお会いできて大変喜んでおります。春の泊旅行関係の皆様方にお礼申し上げます。平井逸夫/長野冬季オリンピック施設見学旅行は盛会裡に終了しました。ご協力いただいた方々に厚く御礼申し上げます。河原勢自/親睦旅行を楽しくやってきました。平井さん、青野さん、大日方さん、西澤さん、大変御世話頂きました。大変盛り上って連帯を深めました。河原勢自/親睦旅行でお土産を奪取された柴藤さん、川鍋さん、ごめんなさい。私のせいではありません。以下、親睦旅行関係のコメントを省略し、氏名のみ記載/吉田用親、四分一勝、川鍋二朗、荒木昭文、入沢頼二。佐藤定宏、小杉真史、谷村義雄/親睦旅行に参加できず失礼しました。吉岡琢磨/佐藤さん、お身体の具合、如何ですか。ご自愛下さい。谷 義一/久しぶりに出席しました。ヨーロッパに2週間出掛けていました。岩瀬秀郎/来週からメークアップが続きます。後藤信夫/楷の木の“芽”らしきものが出てきました。鈴木重徳/長男が初月給を持って帰りました。鍋島晴夫/大日方さん、先日は申し訳ありませんでした。相澤成憲/5月第1週です。横山さんご苦勞様です。新保國彦/横山さんの笑顔に誘われて。横山秀明/先日の楽しい親睦旅行、関係者の皆様ありがとうございました。ニコニコボックスのご協力ありがとうございました。

## ◎次週予告 回卓話予定「西洋美術品オークション事情——世界と日本——」

5月16日/第511回例会

西洋美術商協会組合専務理事

関

敬 氏

東京新南ロータリークラブ

会長: 河原勢自 副会長: 保森 登 幹事: 荒木昭文

〒107 東京都港区赤坂 2-19-8 赤坂 2 丁目 アネックス 3 階

TEL.03-3505-5976 FAX.03-3505-6004

例会日●毎週金曜日 12時30分

例会場●東京全日空ホテル 〒107 東京都港区赤坂 1-12-33 TEL.03-3505-1111

〈会報委員〉

山下 忠治、大村 富俊、伊部 和夫、大日方 真、柴藤清三郎、相澤 成憲、島田 昌雄、村山 公士、川鍋 二朗、関 征春、宮本 正祥、岩瀬 秀郎

(編集担当順)